

青果育種研究会

種苗会社と連携を

耐暑性品種などに注目

種苗会社および関連業者で構成する青果育種研究会(会長川後藤正明、横浜丸中青果会長)では、東京・大田市場で「第170回 品種見本市」(協力東京青果、東京在厚青果)を開催し、種苗会社13社、協力会社3社が出展した。今回のテーマは「タネ屋さんと連携しよう」。温暖化が進み、農産物全般がますます栽培しにくくなる中、耐暑性を強化するなど優良な品種が次々と開発されている。そしてその特性を活かすためにも、流通業者と種苗会社との連携を促した。

当日は後藤会長、協力会社を代表して川田光太・東京青果社長が挨拶。さらに出展各社が「ヨートスピーチ」、展示品種や提供サービスの特徴を訴えた。

白イチゴ「初恋の香り」などを開発してきた。「きみまるこ」は皮の白さとともに、加熱すると果肉は卵の黄身のようにきれいな黄色となり、冷めても褐変が目立たない。まろやかな口あたりが特徴で、焼き芋、加工用にも適する。紅系品種と紅白で並べると「縁起が良い」と好評。昨年9月の発売以来SNS映えはもろろん、テレビに数多く取上げられ、ふるさと納税の返礼品にも活用されているという。

また、ナント種苗(奈良県)の黄色系スイカ「スイナップル」は、「業界初! 甘酸っぱいスイカ!」がキャッチコピー。同社開発で定評のある「金色羅王」の系統で、酸味のある、さわやかな味わいの新ジャンル。糖度は14度前後と高く安定し、しかもクエン酸量は赤肉系品種の約3倍。甘味と酸味のバランスが良い。また市場には出回っておらず、来年1月からサンプル種子を限定1万粒配布する予定だという。

また、タキイ種苗(京都)

大田市場で見本市

「おいしさとサイズを両立させた夢のような」スイートコーン「ドルチェドリーム」などが注目を集めた。

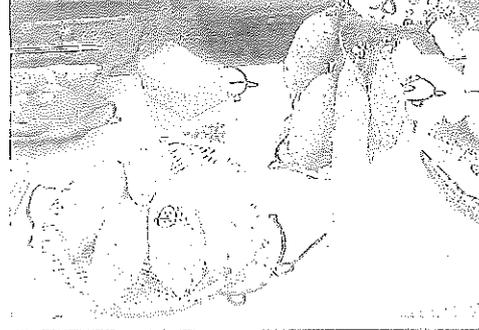
出展種苗会社等は次のとおり(出展品目)。

都市)の温暖化に対応した暑さ対策レタス「ピートガイ」、サナテックシード(東京都港区)のマト、エダマメ、ニンジン、小カブ(▽ウイルモランみかど(トマト、ネギ、カボチャ)▽横浜植木(ネギ、ピーマン、パプリカ、メロン等)▽カネコ種苗(トマト、カボチャ、サツマイモ)▽園芸植物育種研究所(トマト、カボチャ、ピーマン)▽タキイ種苗(トマト、レタス、ネギ、カボチャ、ダイコン、ニンジン)

トマト、カボチャ、ケール、ナス、スティックカリフラワー)▽渡辺農園(トマト、エダマメ、ニンジン)

ン、キャベツ)▽サナテックシード(トマト、スイートコーン)▽三好アグリテック(サツマイモ)▽高田種苗(トマト、キヌワリ、レタス、ピーマン、スナック野菜)▽萩原農場(スイカ、メロン)▽サカタのタネ(トマト、ハクサイ、キャベツ)▽ナント種苗(スイカ、カボチャ)

そのほか資材関係では住友ベークライトが青果物鮮度保持フィルム「P-プラス」、ヤマノが青果物包装機器を、また大田市場青果仲卸の大治は、卸売市場を活用した有機野菜の学校給食納入システムをPRした。



(写真上) 大田市場はじめ多くの青果流通業者が参加した第170回品種見本市(中)三好アグリテックの白いサツマイモ「きみまるこ」(下)ナント種苗のスイカ「スイナップル」の試食は大人気